日本庭園学会ニュース
The Academic Society of Japanese Garden News

NO.82
平成27年

予告　平成27年度　全国大会・研究会発表会

発行　日本庭園学会（会長 鈴木久男）
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 地域環境学部 造園科学科
ガーデンデザイン研究室内
TEl(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)
http://wwwsoc.nii.ac.jp/asjg/

予告　平成27年度　全国大会

■平成27年度　日本庭園学会全国大会　開催内容・プログラム：第1日目

＜日　時＞：平成27年6月13日（土）

＜会　場＞：懐徳館庭園・育徳園（東京大学本郷キャンパス）、中島董一郎記念ホール（東京大学弥生キャンパス）

◆シンポジウム「江戸庭園の新地平」

東京では、尾張藩下屋敷庭園や小石川後楽園等で発掘調査が進展し、江戸期の大名藩邸庭園の機能・意匠に関する情報が蓄積されつつあります。また、江戸期の絵図に代表される資料の精査から、庭園が多面的に利用されていたこともわかってきました。本シンポジウムでは、考古学、造園史、建築史による学際的な観点で、江戸の大名庭園を最新の情報も交えて検討し、近世都市江戸における意味を考察します。

シンポジウムスケジュール

09：00～09：30　見学会受付　集合場所：東京大学赤門前
09：30～11：00　庭園見学（懐徳館庭園・育徳園）

休憩・移動

12：30～13：00　シンポジウム受付（東京大学中島董一郎記念ホール）
総合司会：企画委員会大会運営委員担当
13：00～13：05　開会挨拶：
13：05～13：10　趣旨説明：玉井哲雄氏（生活史研究所）
13：10～14：00　基調講演：江戸の大名屋敷と庭園
谷川章雄氏（早稲田大学人間科学学術院）
14：00～14：25　話題提供1：江戸・大名庭園の利用・機能・意味を探る
服部勉氏（東京農業大学地域環境科学部）
14：30～14：55　話題提供2：不忍池周辺の大名庭園の造成と景観
原　祐一氏（東京大学埋蔵文化財調査室）

15：00 ～ 15：25　話題提供 3：特別史跡・特別名勝小石川後楽園（水戸徳川家大名藩邸庭園）
確認調査の成果と課題
池田悦夫氏（文京区教育委員会）

15：30 ～ 15：40　休　憩・舞台転換

15：40 ～ 16：30　総合討論：座長・玉井哲雄氏および講演者
16：30 ～ 16：40　閉会挨拶：
17：30 ～ 19：30　情報交換会：アブルボア（東京大学弥生キャンパス内）

◆座長・講演者・パネリスト　プロフィール

・玉井　哲雄　氏
東京大学工学部建築学科卒業。千葉大学教授、国立歴史民俗博物館教授、総合研究大学大学院教授等を経て、現在、生活史研究所研究部長。工学博士。

・谷川　章雄　氏
早稲田大学教育学部社会科地理歴史専修卒業。同大学大学院文学研究科史学（考古学）専攻博士課程後期満期退学。早稲田大学人間科学部専任講師、同助教授等を経て、現在、早稲田大学人間科学学術院教授。博士（人間科学）。

・服部　勉　氏
東京農業大学農学部造園学科卒業。同大学大学院農学研究科博士後期課程修了。東京農業大学造園学科助手、専任講師等を経て、現在、東京農業大学地域環境科学部教授。博士（農学）。

・原　祐一　氏
國學院大学Ⅱ部文学部史学科卒業。同大学大学院文学研究科日本史学専攻博士課程後期単位修得満期退学。現在、東京大学埋蔵文化財調査室助手。博士（歴史学）。

・池田　悦夫　氏
東京農業大学卒業。法政大学大学院博士課程満期退学。新宿区立博物館研究員等を経て、現在、文京区教育委員会文化財保護係主任主事。

■

■平成 27 年度　日本庭園学会全国大会　開催内容・プログラム：第 2 日目

＜日　時＞：平成 27 年 6 月 14 日（日）

＜会　場＞：中島董一郎記念ホール（東京大学弥生キャンパス）

◆研究発表会：
08：40 ～ 09：00　受付開始（中島董一郎記念ホール）
09：00 ～ 09：10　開会挨拶

◆研究発表会（午前の部）

09：10 ～ 09：30　岩崎久彌の末廣邸庭園の構成と意匠に関する考察
中江　美晴

09：30 ～ 09：50　庭師城川久治の松桜閣庭園大改修に込めた想い
新山　善一

09：50 ～ 10：10　庭園内に建てられた建物について
大澤　伸啓

10：10 ～ 10：30　駒ヶ根市光前寺庭園の池の発掘の中間報告
氣賀澤進・北沢稔・佐々木邦博

10：30 ～ 10：50　桂離宮庭園の直線的苑路について
鈴木　　蔀

10：50 ～ 11：10　景石に対する人の生理・心理反応に関する実験的研究
田中　葉月

11：10 ～ 11：30　怡園の成立にみる庭の所有者における志向性
今江　秀史

11：30 ～ 11：50　廣誠院の隣接地での建設工事に伴う調査・記録にみる庭の所有者の志向性
今江　秀史

11：50 ～ 12：10「スコア」という概念の中身と有効性について
岡島　直方

◆昼食休憩／理事会・総会等

12：10 ～ 13：00　昼食休憩／理事会

13：00 ～ 14：00　総会・日本庭園学会賞授賞式

◆研究発表会（午後の部）

14：00 ～ 14：20　福岡県の伝雪舟作庭庭園について
正田実知彦

14：20 ～ 14：40　郷土造園家が担う庭園マネージメントと国際交流
土沼隆雄・土沼直亮・松山雄二・鈴木誠

14：40 ～ 15：00　作庭記に学ぶ事業戦略（4）＜ブランドマネジメント＞への示唆
森　　泰規

15：00 ～ 15：20　中国の私家園林：寄暢園の空間構成の変遷に関する考察
梁　　潔

15：20 ～ 15：40　韓国に造成された日本庭園に関する研究
鈴木　誠・服部　勉・平澤　毅・粟野　隆・佐々木邦博・松本恵樹・
Hong, Kwang-pyo・Hur, Sang-heun・LEE, Hyukjae・Kang, In-ae

15：40 ～ 16：00　韓国の外岩里における民家庭園の日本的特性に関する研究
LEE ,Hyukjae・HONG ,Kwangpyo・KIM, Keunha

16：00 ～ 16：20　日中韓における隠棲庭園の構成と造営意図に関する研究―拙政園、瀟灑園、詩仙堂を対象にして
孫　旻愷・藤井　英二郎

16：20 ～ 16：30　閉会挨拶

■

◆参加費

学会員：2,000 円

非会員：4,000 円

※学生は、会員の場合 1,000 円、非会員の場合は 2,000 円とします。

※大会参加費については、1 日のみの参加でも上記金額を徴収します。

6 月 13 日の情報交換会は、5,000 円程度で予定しています。

◆問い合わせ

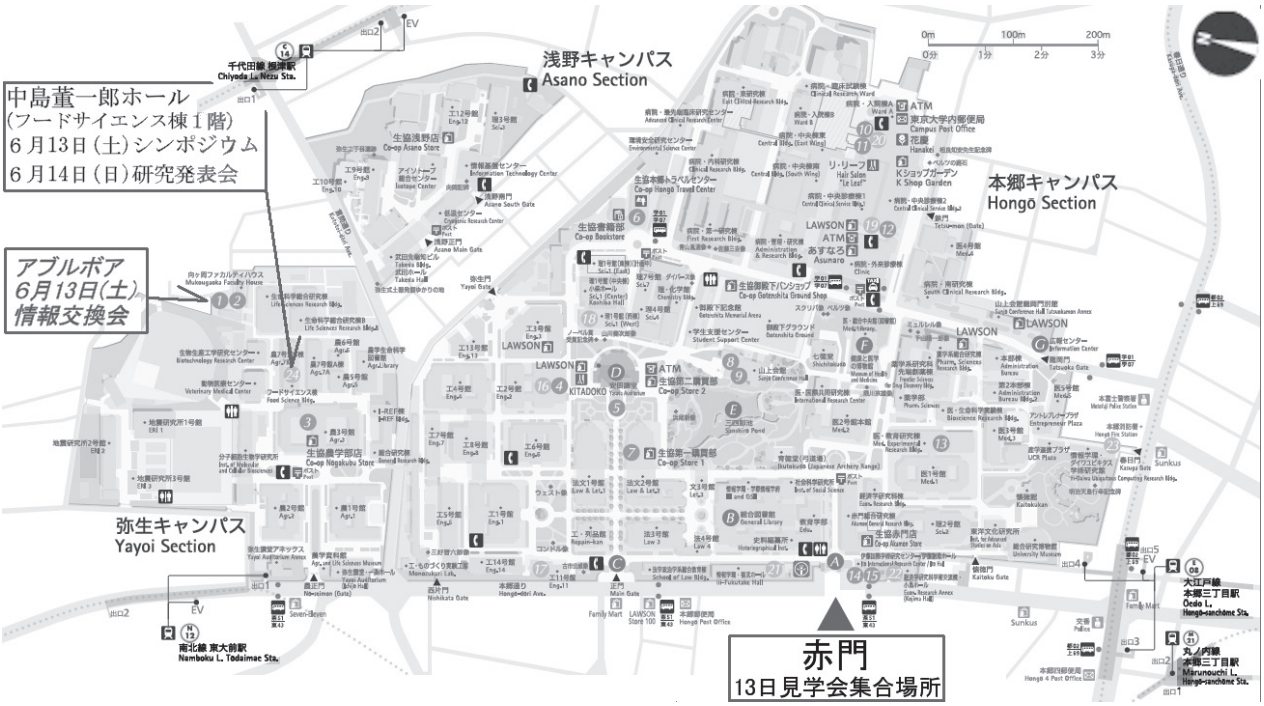
栗野　隆（日本庭園学会全国大会運営担当、東京農業大学）

電話：03-5477-2428

メール：t3awano@nodai.ac.jp

■

平成 27 年度全国大会マップ（東京大学構内には大会会場に関する案内看板は掲示されませんので、本図を参照の上、ご参集下さい。）



地下鉄をご利用の場合、最寄りの駅は、本郷三丁目駅（地下鉄丸の内線、地下鉄大江戸線）、根津駅（地下鉄千代田線）、東大前駅（地下鉄南北線）となります。また、都バスをご利用の場合は、見学会では東大赤門前が、シンポジウムと研究発表会では東大農学部前が最寄りのバス停となります。

■

■平成 27 年度　日本庭園学会全国大会研究発表の概要

1.「岩崎久彌の末廣邸庭園の構成と意匠に関する考察」

中江　美晴（国土地理院）

概　要：三菱 3 代目社長であった岩崎久彌の末廣邸庭園は、建物からの眺めの雰囲気が各部屋により異なることに特徴がある。その眺めの構成としては針葉樹を主としたもの、落葉樹を主としたもの、畑を主としたものがあり、構成の主体となるものにより庭の雰囲気が変化する。全体としては芝生が広がり、人の手の影響を受けた自然環境が広がる里山の風景が表現された山荘であると考察する。

2.「庭師城川久治の松桜閣庭園大改修に込めた想い」

新山　善一（職藝学院名匠情報センター）

概　要：城川久治（1876 ～ 1944）は、若い頃から農業の片手間に庭造りをしていた。大正 12 年 46 歳の時、造園業を開業し県内外に多くの庭と石碑を造作している。特に石碑の造作では宗教的潮流を織り込んだ独自の意匠境地を開拓した。昭和 7 年の松桜閣庭園大改修では、彼の作風が遺憾なく発揮され完成するや庭園の解説書として「庭叙」を書き記した。その内容と彼の生き方を含めて庭園大改修に込めた想いを究明したい。

3.「庭園内に建てられた建物について」

大澤　伸啓（足利市教育委員会）

概　要：1998 ～ 2006 年にかけて、東京都汐留遺跡の発掘調査が行われ、仙台藩江戸上屋敷の表向き庭園等が確認された。この表向き庭園南東部にあった建物遺構を「貴重品を収蔵した蔵」と考え、火災から貴重品を守るため、あえて庭園内に建物をつくったものとした。このような事例は、他の遺跡でもみることができる。今後、貴重品の保護という観点からも、庭園内の建物の性格を検討する必要がある。

4.「駒ヶ根市光前寺庭園の池の発掘の中間報告」

氣賀澤　進（駒ヶ根市立博物館館長）・北沢　稔（駒ヶ根市教育委員会）・佐々木　邦博（信州大学農学部）

概　要：長野県駒ヶ根市にある光前寺庭園は昭和 42 年（1967）に国により名勝に指定されているが、この庭園に関する史料は少ない。池には 2 つの池が並び、その間が中島のようになっている。参道はその中央を横断している。庭園の変遷を探るとともに保存修復を進めるため、本堂前庭園の池の周囲を発掘し、また池の泥揚げの際に池底の調査を行った。本発表はその報告である。

5.「桂離宮庭園の直線的苑路について」

鈴木　　蔀（鈴木蔀建築事務所）

概　要：桂離宮庭園は三つの橋を境にして、曲線的苑路と直線的苑路がきっぱりと対比している。これは平成 26 年度全国大会で「桂の幾何学」で構成要素の図形的性質として簡単に触れた。今回はその中の直線的苑路を取り上げ、骨太の「構造的苑路」と繊細華麗な「書院廻りの苑路」に分け、そのパターンやスケールの解析を通じ、庭園全体の中で果たす役割や意味を探る、さらに「寝殿造り」の全体構造を参照することで桂離宮庭園の実態的構造を明らかにする。

6.「景石に対する人の生理・心理反応に関する実験的研究」

田中　葉月（千葉大学大学院園芸研究科）

概　要：日本庭園の重要な要素である景石は、あたかも大きな石の一部が地面から出ているように据えられ、さらに根締めの植栽が添えられた景石もよく見られるが、欧米では置かれた石がよく見受けられる。本実験では、ただ単に地面に置かれた石、据えられた石、根締め植栽を加えた石を見たときの日本人と欧米人の生理・心理反応を脳血流、眼球運動、印象評価によって解析・比較し、日本人及び欧米人の石の据え方を探った。

7.「怡園の成立にみる庭の所有者における志向性」

今江　秀史（京都市文化財保護課、大阪大学大学院人間科学研究科）

概　要：本論は、細川藤孝（幽斎）を始祖とする細川家の京都邸・怡園が、16 代護立、17 代護貞らのいかなる動機によって築造され、70 年以上にわたり継承されたかについて、資料に基づいて解明した上で、庭の所有者における志向の一般性の一端を導出するものである。結果として、庭の所有者にとって庭の築造と継承は能動的かつ受動的な行為であり、その動機は社会情勢に大きく依拠して変容する。庭の築造は明確な意図に基づく場合が多いが、継承は所有した結果として後発的に自覚されることがある。言い換えれば、永続的な庭の継承には、各時期における所有者の充足が重要であることが明らかになった。

8.「廣誠院の隣接地での建設工事に伴う調査・記録にみる庭の所有者の志向性」

今江　秀史（京都市文化財保護課、大阪大学大学院人間科学研究科）

概　要：従来の文化財庭園の記録は、その時点における出来事を記していても、将来への再現性を備えてはいなかった。実際に特定の庭の修理記録を、それ自体あるいはその他の庭における将来の修理に適用させるためには、あらかじめ再現性を備える科学的記述を準備しておく必要がある。本論は、庭のき損に関わる出来事の一般性を解明する試みとして、京都市指定名勝廣誠院庭園を題材とし、その隣接地で行われた建設工事に伴う調査手法とその結果を検証する。その上で、庭の所有者が外部からの影響に対して抱く志向性を顕在化する。

9.「「スコア」という概念の中身と有効性について」

岡島　直方（南九州大学環境園芸学部）

概　要：米国西海岸においてハルプリンが 1960 年代に提唱したスコアという考え方はどのようなものであったのかについて調べ、その現代的な意味を問う。まずハルプリンがどのようなものをスコアと呼んでいたのか、その広がりを網羅し、この考え方を彼がどのように記述し発展させたのかなどについて検討する。その中から今後の造園活動におけるプロジェクトの位置づけに役立てることができる部分が何か考察する。

10.「福岡県の伝雪舟作庭庭園について」

正田　実知彦（福岡県教育庁総務部文化財保護課）

概　要：福岡県内には国指定名勝旧亀石坊庭園（添田町英彦山）をはじめ､室町期の画僧･雪舟等揚（1420-1502）が作庭したと伝わる庭園が数多く存在する。しかし、すべての庭園において作庭に係る記録が残らないため、その真偽は定かでない。今回、伝雪舟作庭庭園の既往研究や資料を整理し伝承の起源を探る。また、雪舟作庭と伝わる庭園に共通する構成や意匠について検討し、その真偽について考察を加えたい。

11.「郷土造園家が担う庭園マネージメントと国際交流」

土沼　隆雄・土沼　直亮（(株)要松園コーポレーション）・松山　雄二・鈴木　誠（東京農業大学）

概　要：庭園は、築造当初から所有者の身近な生活の舞台として社交や慰安、鑑賞などで利用されてきた。現代では、市民に公開される庭園も多く、社会のなかで「生きた総合空間」として多様な形で人と繋がり、地域に開かれた「地域の宝」としての庭園マネージメントが求められる。国際交流の観点から言えば、日本に来て日本文化や日本的なものに触れてみたいという外国人は意外と多い。庭園もその一つで、庭園を核とした国際交流の機運も徐々に高まっている。

12.「作庭記に学ぶ事業戦略（4）＜ブランドマネジメント＞への示唆」

森　　泰規（(株)博報堂）

概　要:職業上「ブランド」について考えない日はない。「他の何かとの識別」だけではなく、「利用者によってブランドが体験されていく過程がどのように進展するか」が課題であり、送り手の側から見るとこれを＜ブランドマネジメント＞と呼ぶ。『作庭記』にはその道程に対する普遍的な示唆がある。その普遍性を明らかにするために、意図して今回は西洋音楽との対比を用いて紹介し、筆者の具体的実践例についても紹介する。

13.「中国の私家園林：寄暢園の空間構成の変遷に関する考察」

梁　　潔（千葉大学大学院園芸研究科）

概　要：本論では、無錫の恵山の麓に位置する 400 年の歴史を持つ私家園林：寄暢園の明末から清初まで 100 年の間の改修経緯と庭園構成検討した。明末の園主・秦燿が 1590 年代に庭園改修し、大凡 70 年後の清初の 1660 年代に園主・秦松齢がもう一度改修を行った。この 2 回の改修で、寄暢園の構成が改変された結果、素晴らしいと称えられる名園となった。園主の秦松齢が 1668 年に有名な造園家族の一員である張鈇を雇ったことに重要な意味があったと筆者は考える。この改修の際に、庭池の長橋が撤去された。これは小石川後楽園の長橋と同じ、遊園の方式と景物の意義に大きな変化をもたらしたと考えられる。

14.「韓国に造成された日本庭園に関する研究」

鈴木　誠・服部　勉（東京農業大学）・平澤　毅（文化庁）・粟野　隆（東京農業大学）・佐々木　邦博（信州大学）・松本　恵樹（(有)春秋設計工房）・Hong, Kwang-pyo･Hur,Sang-heun･LEE, Hyukjae･Kang, In-ae(Dongguk University)

概　要:韓国に造成されて遺存する日本庭園を対象とし、その存在の確認と現況調査を通じて、庭園の立地、空間構成、各構成要素と様式的特徴の把握、また庭園の造成経緯を明らかにすることを目的とした。これまでの現地調査から判明した、近代に造られた韓国の日本庭園の概要について報告する。なお、本研究は平成26年度より二国間交流事業共同研究（JSPS）として2ヶ年計画で実施している研究成果の一部である。

15.「韓国の外岩里における民家庭園の日本的特性に関する研究」

LEE ,Hyukjae・HONG ,Kwangpyo・KIM, Keunha（Dongguk University）

概　要：日本の植民地時代に造られた韓国の民家の庭園は伝統的な庭園と異なる特性を持っている。本研究の対象地である外岩里の民家には水路を利用した池泉式庭園があり、築山、遣水、飛び石、庭石、亀島のような日本庭園でみられる構成要素が発見された。また、植栽パターンや池の形態等も日本庭園の様式と類似性があると判断される。特に、町の中央に流れる水路は生活用水、庭園の池、農業用水に使われ、それは日本の松代の水路と類似していることから今後の比較研究が必要である。

16.「日中韓における隠棲庭園の構成と造営意図に関する研究―拙政園、瀟灑園、詩仙堂を対象にして」

孫　旻愷(千葉大学大学院園芸研究科)・藤井　英二郎(千葉大学園芸学部)

概　要：筆者らは2011年に「中国明代私家園林拙政園の庭園構成に関する史的考察」、2013年に「朝鮮時代中期の隠棲庭園瀟灑園の庭園構成と造営意図に関する考察」を発表した。今回筆者らは、上記2庭園と同じ近世における日本の隠棲庭園：詩仙堂も加えて、3つの隠棲庭園の造営当初の構成と造営意図を比較し、日中韓3ヶ国の隠棲庭園の構成と造営意図にみられる共通点、相違点及び表現方法の異同について考察した。

■

■編集後記

平成27年度の全国大会では、「江戸庭園の新地平」という主題により、学際的な検討と考察が行われる。最新の研究成果に基づき、江戸期の大名藩邸における庭園の機能あるいは意匠についての詳細を示されるに違いない。

その主題は、日本庭園学会の設立の趣意である「…日本庭園の研究は従来採られてきたように、単に造園の専門分野のみからするアプローチだけでは不十分であって、より広く、たとえば建築学の分野はもとより、生活文化としての茶道、華道、あるいは精神文化としての哲学、宗教、特に仏教文化の分野、さらに美術・工芸・絵画等々、多方面から行われてこそ…」という内容と合致していて実に興味深い。

ところで、さらにその記述を辿ると、意外にも「学際」という語が使われている訳ではないことに気づく。むしろ「…「すまい」というくらいの空間の一要素であり、生活に密着した存在…」である「…日本庭園を多方面から総合的に研究・討議するとともに、日本庭園を軸ととして日本文化についても考究するもの…」と述べられている。

これは、学際的研究といっても、各科学分野がそれぞれの専門母系（パラダイム）に則って、発表または記述してもそれぞれの専門性が障壁となって共通理解が得られにくいが、「住まい」という日常生活の世界における立ち位置を共有することにより、同じ目線での対話ができることを示唆している。

互いの科学分野を尊重しつつ、共通の足場に立って、文化という視点も交えて、充実した議論が展開されることが期待される。

■

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願いします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願いします。

（編集協力）
山本　千晶（植彌加藤造園株式会社）

日本庭園学会広報委員会
今江　秀史・加藤　友規
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター気付
日本庭園学会関西支部事務局　FAX(075)791-9342